

## 山里口御門の発掘調査について

### ○山里口御門：

本丸の西側につくられた山里から、本丸への入口の門として、城の創建当時（1606年）からつくられた門。寛文の大火（1669年）で、天守閣や櫓とともに焼失したが、その後、再建。

御座所が、現在の中央公園の場所にあった春嶽などの時代には、藩主が、御座所から御廊下橋を渡り、山里口御門をくぐって本丸へ向かったと考えられる。

○目的：県都デザイン戦略会議で示された、山里口御門の復元整備に向けて、門の構造および建築に係る遺構の遺存状況を把握するために調査を実施

○調査期間：平成25年7月8日（月）～

### ○成果：

- ・門の柱を支えるために石垣面を約30cm幅で彫り込んだ跡（柱受け）を4か所確認
- ・4か所の彫り込みの下部では、柱を差し込んだと思われるほぞ穴を確認
- ・石垣の両側で、石垣に沿って配置された石製の排水路の一部を検出

### ○現場見学会：

- ・7月27日（土）午後1時30分～

※報道機関向け説明会 7月23日（火）午後1時30分～



○発掘現場



写真1

調査区全景（東より）



写真2

ほぞ穴と排水路（北より）

図 調査区平面略図

